

本科 1 期 5 月度

解答

Z会東大進学教室

# 中3国語



## 4章

### 【添削課題】

#### 解答

出典：正高信男『考えないヒト』 / 06年 海城高校

問1 ①＝陥 ②＝到来 ③＝提唱 ④＝遂

問2 かかってくるあてがなくても、そばに置いておきたい（と思う点）〔24字〕

問3 互いに同じ（13行目）

問4 (エ) 問5 (ア)

問6 ケータイの発明によって、テレビ受像機の前に集まる形で存在していたコミュニティーが完全に失われ、個と個が直接にしかも顔を合わせずにつながるようになったということ。〔80字〕

問7 (エ) 問8 (イ)

問9 (ウ) 問10 多様（38・39行目）

問11 (ア)



## 【問題】(演習)

出典：『醒睡笑』

## 現代語訳

(ある寺に) 何とも言いようがないほど愚かな弟子がいた。檀家の人が集まって、茶菓子などをつまんでいるような席では、年齢のことが話題になるのは、世間によくあることだ。それなのに、その弟子は、どうかすると、まだ三十歳の者を四十と見まちがえ、五十歳ぐらいの者を、六十ぐらいと見まちがえて(みんなにばかにされて) 笑われているのを、(寺の) 坊さんが聞きとがめ、「バカにつける薬がないとは本当のことだ。私もだれでも、年をとりたい者はいない。誰であっても『見た目よりも若い』と言ってあげるようなことが本望であろう。決して、まちがっても人を年寄りと言ってはいけない。」とお教えになった。翌日、その弟子が使いに行き、女が子を抱えているのを見つけて、「このお子さんはいくつですか。」(と聞くと) 「この子は、今年の生まれで、まだ満一歳になっていらっしゃいません。」と答えた。(そこで) 弟子は、「さて、一歳というが(それより) 若くていらっしゃる。」と(言った)。

## 解答

問1 a 〓 動詞 b 〓 助動詞 c 〓 動詞 d 〓 助詞 e 〓 形容詞

問2 A 〓 弟子(1行目) B 〓 坊主(3行目) C 〓 女房(5行目)

問3 1 〓 何とも言いようがないほど愚かな弟子がいた。

2 〓 誰であっても「見た目よりも若い」と言ってあげるようなことが本望であろう。

問4 (i)あなたの子は一歳よりも若く見えますよ。

(ii)「人を年寄りと言ってはいけない」という坊主の教えを守ろうとした弟子が、赤ん坊に対してまでも年が若いと的外れなことを言ったところ。

理解を深める

1 いは(動詞) / ん(助動詞) / かた(名詞) / なき(形容詞) / 鈍なる(形容動詞) / 弟子(名詞) /  
あり(動詞)

2 誰(名詞) / を(助詞) / も(助詞) / 若い(形容詞) / と(助詞) / いは(動詞) / ん(助動詞) /  
こそ(助詞) / 本意(名詞) / なら(助動詞) / め(助動詞)

## 【問題】(演習)

出典：松平定信『花月草紙』

## 現代語訳

ある医者がいた。病気をした者がいると、身分の上下を選ばず、たいへん熱心に気持ちこめて診察した。たいへん貧乏な者で病気にかかった人がいた。(医者)は薬を持って(出向き)、薬を処方していると、その母である老婆でじっと見ていた者が、はい寄ってきて「恐れ多いことですが、お願い申し上げたいことがあります」といって、とても言い出しにくそうにしていたので、「何のことであっても、思うことがあるなら言ってみなさい」と言うと、遠慮がちに声をふるわせて、「薬箱の下に組み入れていらっしやるお薬もただけませんか」と言ったので、(医者)はほえんで「それならばあげましょう」といって、下に入れてあった薬の中で、差し障りのない薬を二、三種取り出して処方したが、(老婆)は「きつとその薬は、効き目があるに違いない」と言った。このように愚かな者に、「この病気には、このような薬を調べて処方するのである。それにはこれこれの薬を使う。薬箱の上の段に偶然入れてあったので、取り出して処方したのだ。下の段に組み入れている薬は、(下にあるからといって)身分の上下には関係はないのだ」と、まじめに言ったとしても、相手は聞き分け、納得するだろうか。(するはずがない。) (愚かな者には)差し障りがなければ、相手の気がすむようにさせてやるのは、すぐれた対応だ。

## 解答

問1 a ㉖

b ㉗

c ㉘

問2 下にある薬が、身分の高い者のために使う効果の高い薬だと思ったから。(33字)

問3 (エ)

問4 この病には、隔てはなし(6、8行目)

問5 (ア)

理解を深める

- ①ラ行変格活用「あり」連用形
- ②マ行上一段活用「見る」連用形
- ③ワ行上一段活用「ゐる」連用形
- ④ラ行変格活用「侍り」已然形

出典：島木健作『ジガ蜂』／信州大学・改題

## 解答

問1 第二：やがて夏が（32行目） 第三：また暖かい（45行目）

問2 春には卵から幼虫がかえり新しい命が生まれるが、その頃には自分は死んでいるのではないかと不安に思われた。

問3 取り止めのない夢想到に耽ることがあるということを見つめ、反省しているということは、自分がまだ絶望的状态ではないことの証拠になるから。

問4 自然の中では、人間も虫も変わりはないという、生きものとしての一体感や親近感を感じさせる効果。

問5 死を覚悟していた「私」であったが、春になって新しく生まれてきたジガ蜂の翅音を聞くことによって、自分が今も生きていることの喜びを感じ、ジガ蜂の生に励まされるように自分も生きる意欲を取り戻しているということ。











会員番号	
------	--

氏名	
----	--